

を受納れ、私に衣服を着せ、食物を與へ給ふたのであります。主を稱めよ。私は己が信する所の者を知てゐます。罪を赦されし罪人は其を知つてゐる筈であります。何せなれば「神の子を信する者は其裏に此證あり」。あゝ何たる恵でせう。若し私が此事を信じてゐないならば、私は再び罪人に歸ることを欲ひませぬ

△清潔—基督信者の結ぶ果の一

婦人が改心したと云ても、若し其家に往て見て、内が汚穢ならば私は其婦人の改心を信じませぬ。母親たる者が改心したと云ても、もし其子女らが汚く、穢れし衣服を着てゐるなれば、私は其人の改心を信じませぬ。だから乞食が私の所に來ますなら、私は常も其汚穢を見て、體を洗つてこなければ、何をも與へぬと云てやります、丁度此様に、若し諸君の中に、汚穢ひ家を有てゐる人があつて、私が訪問する時に、自分は基督信者であると云ても、私は其人を基督

を知らない人であると云はなければなりません。何せなれば、不潔は基督信者の結ぶ果ではないからであります

△一致を欲ふ心—基督信者の結ぶ果の二

リ—クで或人が改心したことがある。私は其人と心安い中であつたから、或日其人の化粧部屋に入つて、化粧臺の小さな引出にいれて有た、貴重なる寶石の裝飾品を見ました。その時彼は私に「此は私の寶石の裝飾品を入れる引出であります」と申しました。私は其中を覗きわたる時に、不圖胸に浮びしとは「主は寶石を入れし引出を幾つも御有ちなされるであらふか」と云ふことであります

先づ英國教會と云ふ引出がある。此中にはデスセンタースの様な善い國教會員もある。併し中には寶石もあれば偽物もあります。又獨立教會と云ふ引出もある。主は此中に多くの寶石を有つてゐ給ふ又長禮教會と云ふ引出もある。此中には小さな寶石が澤山にあるが

併しスボルジョンと呼ぶ、一ツの大なる立派な寶石が、倫敦の彼方に輝ひてゐます。若し諸君が探し求めらるゝならば、此外に尙ほ寶石の充ちたるウエスレー教會、又はリホーマースなる引出もあり、併し此様なに多くの宗派なる引出があることは、誠に厭ふべきことでありませう。私は神が此等の引出の底板を抜き取つて、全体を一ツの大なる引出となし玉ふとを、欲ふ者であります。此様なに澤山の引出、即ち宗派や團體のあることは、或人々には大なる疑惑となつてゐます。基督信者は皆一人の亡父を載ける子女らなるに、何せ此様なに分離してゐるのであらふかと、彼等は不思議がつてゐます。あゝキリストが引出となりて、我等を皆一ツになし給ふ時の、一日も速かならんことを、私は欲ふ者であります。主よ、我等を助けて、之が爲に力を竭させ給へ

△罪を赦す精神—基督信者の結ぶ果の三

或夜私が説教しゐる處へ、一人の放蕩息子が来て、「先生、私は御説教を聴く爲に、此處へ参つたのではなく、人様の懷中に手を入れて、窃盗を働く爲に参つたのであります。もう其を止めて祈ります」と云て、祈りだしました。祈り終つて起立つた時に、彼は救はれてゐました。「ドウして其が分りますか」と、或人は尋ねませう。そこで私は斯う云ひ換へませう「彼が救はれたと自ら認はしたのだ」と、若し此様な人が、始終一徹に善き行爲をなし、自から認はせし所の事が、眞實なることを證據立るなれば、私が其人の救はれしとを信するは、當然のとであります。偕て此人は其後五ヶ年を経し今日に至るも、尙ほ變らず正直に神の前に歩ゆんであります。人が實際主に服従ゐるや否やを試すに、五年もかゝれば充分であると私は信じます

先に此青年と一所に祈りし兄弟が「君は某所で僕と同級ではなか

つたか』と尋ねますと

青「然です

兄「君は何某を知つてゐますか

青「知つてゐます

兄「ぢや君は其人の放蕩息子ではないですか

青「然です

兄「それなら泣くには及ばないよ、僕の宅には空虚寢臺があるから

僕の處へいらつしやい

其から私共三人一所に馬車に乗りますと、青年が斯様に申しました

「私は是非父母を訪ねて、私の身にあつた事を告げ、父の赦を得

たいと欲ひます。元より私は、父の家に入れる資格なきものです

が是非往て話したう欲ひます

私共は其家の前まで馬車を走らせ、其處で彼のみ馬車より下りて、

戸口まで参りますと内から下女が出て來ましたが、その時客室に誰か人が居た様でありました

青「父さんは家に居るか

下「ハイゐらつしやいます

頼て下女の報せで、一人の老人が戸口まで出て來ましたが、其後に

小な娘と母親とが伴ひてゐました。彼等は目に涙を浮べてゐました

その時青年は父の前に跪づき

「父さん、私は今晚神様に罪を皆赦されましたから、ドウぞあな

たも私の罪を赦してくださいませんか

と願ひますと、妹は此様を見て横間から

「オヤ兄さんが居らつしやつたわ

と申しました。けれども父は無情も

「三週間ばかり經てから來るがよからふ。其上で何とか挨拶しや

うと云ひ捨て、内へ入つてしまひました。そこで青年は父の家を去て、友人の宅へ参りました。けれどもあまり悲しかつたので、食事もせず、只坐つて泣ひてばかりゐました。馳つて彼は泣きながら斯様に申しました。

「ツイーバー君、お聞きなさいましたか。私は父があんなに云つたからとて、其を別段氣には致しませぬ。元より私は、あんなに云はれるだけの悪者ですが、君は私の幼い妹が「オヤ兄さんがゐらつしやる」と云たのをお聞きなさいましたでせう。私は其妹の言に非常に感激致しました。妹があんなに云つたのは、私をまだ兄だと思ふてゐるからではありますまいか。私共は種々と言葉を竭くして、彼を慰めやうと致しましたが、彼は其を耳にもかけず、「私が悪いんです、私が悪いんです」と聲を發つて泣きました。

間もなく入口の戸を叩く音が聞へ、一人の下女が入つて来て、泣きゐる青年に向ひ

「若旦那様、ドウか是非御歸りください。私はあなたを御連れ歸り申すやうに、父様から命かつて参りましたと申しますと、青年は

「父さんは、ドウしてそんなに速く私をお赦しくださるのだらふと尋ねました

「アノ私共は家庭禮拜に列りまして、旦那様は聖書を讀んで、御祈禱をなさいました。丁度主の祈禱の時に「我儕に罪を犯す者を我儕が赦すごとく我儕の罪をも赦し給へ」と云ふ所まで参りました。御嬢様が「父さん祈禱をやめてください」と仰しやつたので、旦那様は「何せだ」と御尋ねなさいますと「あなたは私の兄さんを御赦しなさないんですもの」と御答へなさいました。

そこで旦那様も、御祈禱をお続けなさる事ができないで、大層御困りになつて、到頭私に、あなたをお連れ歸り申す様に、御吩咐なさいましたわけなのでムいます

△亡ひし羊

迷ひ出でざる九十九の羊よりも、亡ひし一匹の羊の事を切に思ふのは、人間自然の情ではありますまいか。茲に百匹の羊を有る一人の百姓がありました。或夜彼は、己が所有の羊を數へしに、一匹足りませぬ。多分數へそこないならんと思つて、もう一度數へて見なければぬ。やはり九十九匹よりをりませぬ。そこで彼は、臺所で夕飯を待合せておた女房の傍に往て、「オイ、羊が一匹なくなつたが、もう、此度危い處へでも往たに違ひあるめ」と申しました。――あゝ悪魔も亦キリストの隣れなる羊を、危険に陥れんとて、何時でも用意してゐます――それより彼は羊を探す爲に出で往き、間も

なく羊の足跡を見出しました。――ア―彼處にゐる――進まんとすれば足下危く、絶えず氣を配ばらなければなりません。彼は又度々沼のやうな、水の溜れる處を跳び越へなければなりません。併し尙も羊の足跡に眼を付けながら、進みゆきました。遂に羊の啼く聲の聞ゆる處まで達しました。そのとき羊の沼の中より、「旦那様助けてください」と云はぬばかりに、優しい大きな眼を開けて、チツト百姓を凝視しました。彼は直さま之を救ひ上げて肩にのせますと眞黒な泥水が、ダラ／＼と肩より衣服へ流れ落ちました。けれども其様な事には頓着しなかつた。頓て園の外圍に流れゐる小川まで参りますと、そこで羊を清潔に洗ひました。羊は「難有ムいます」と云はぬばかりに、嬉しうに、啼きながら、牢に歸つて往きました。イエスが迷へる人間を、連れ歸り給ふのも、丁度此通りであります。只イエスは之を肩にのせずして、懐に抱き給ふだけが異つてゐます

そして主は之を御自分の貴き血にて溢るゝ泉、即ち罪と汚穢の爲に開かれし泉にて、洗ひ潔め給ふのであります。主は幾十年の昔、私にも斯くなし給ふたのであります。

△イエスに押しし婦

私は今小き子供が「ダビデの裔ホサナよ」と歌ひながら、愉快げに町を駆け往く所を想像いたします。時に一人の病に悩める憐れなる婦人が、己が家の戸口に立ちながら、子供の歌を聞いておられたが、彼が己が前を通り過ぎんとする所を呼び止めて「モシ、あなたはこの歌つてゐる歌は何なの」と尋ねますと、子供は不審さうに「あなたはまだナザレのイエスの事を知らないんですか。此御方はあの路傍にて乞食をしてゐた、盲のバルテマイを醫し、墓地に送られて往く青年を、途中で蘇生らせ、一時に十人の癩病人を潔め、又人々が病に罹れる骨肉を、澤山に携れて來た時に、みなお醫しなさい

ました。又誰も携れて往てくれる者が無い病人は、只一寸此御方に觸はるだけで、全く癒やされることができます」と申しました。斯くと聞いて婦人は「本統にさうなら、私が十二年も思ひ悩んだ此病も、癒して頂けるに違ひない……子へ御子さん、其御方は何時頃此處へいらつしやるでせう」と尋ねますと、子供は「今直ですよ……ア此方へいらつしやるわ……アレあの大勢の聲が聞へるでせう……ア、御覽なさい、大勢來ましたよ……ホザナ、ダビデの裔ホサナよ」と叫びながら、自分の母親のゐる處へ駆け往き、預ねてより俟望みゐるやうにと、母から教へられてゐた預言者(キリスト)が遂に臨り給ふた事を告げました。隣れなる婦人は、此時悸つく胸の中にて、斯様に思案致しました「マア往て見やう……彼の御方の後まで往て見やう……よし願てくだらないでも、あの子供が云たやうに、押し寄る者はみな癒されると云ふから、兎に角往つて、一ツ試して見やう

「と。それより醫者の爲に身代を皆遣ひはたした揚句に、一層病が重くなつて、誠に衰弱へた氣の毒なる婦人は、破れし肩掛にて身を被ひ、よろしくしながら、群集の中へ割込んで往きました。其時人々は彼女を押し出しました。けれども彼女は尙ほ屈せずして、再び割込んでゆき、或は右に廻はり或は左に廻はり、或は近かづき或は遠ざかりて、彼の御方を幾重にも取巻ける、多くの群集を押し分け、其御側に近づくことは、弱き婦人の身には、殆んど望なく見えました。けれども彼女は更に屈する色なく、幾度となく近づくかんと試みました。あゝ婦人よ、此は御身の生命に關はることではないかもしも御身が癒されなければ、御身は遂に病の爲に斃れなければならぬ。只一度でよいから、御衣に捫つて見よ。病は直ちに癒へるぞ時に此弱わりはてたる婦人に對し、群集の中より荒々しき聲にて「一体おまへは何處まで押ししていくつもりなんだ。おまへの様な者は

此様な處にゐる要はない」と叱りぬる様に思はれます。併し婦人は「あれ彼處に、私が一度も御目に掛かつたこのない御方が見えますドウぞ其御側にいつて、御衣に捫らせてくださいませ。さうすれば私も皆様の様に達者な者となることができます」と云て、一足二足進みし時に、婦人はイエスがヤイロと語つてゐる優しき御聲を聞きました。此時イエスは、ヤイロの死にかゝつてゐる娘を、癒さん爲に、其家へ往かるゝ所でありました。そこで彼女は手を延ばして見たが、まだ御體に届くはどに近くはなかつたから、モウ一足進んで今度は確かに捫ることができました。と云ても衣の裾であつた。併しそれでモウ充分であつた。その時彼女の血の漏るゝとが、直にどまり、既に病癒しど、其身に覺えました。イエスに榮光あれ、彼女は捫りし時に、全く癒されました。あゝ主の御衣にさへ、斯る徳があります。況して其御血の効徳は如何ばかりでありますか。願く

は神諸君を助けて、今夜キリストに導き玉はんことを

三百六十八

驚天動地 宇伊波實歷談 (全)
傳道奇譚

明治四十二年十二月十九日印刷
明治四十二年十二月廿三日發行

定價 上製五拾五錢
並製參拾六錢

不許複製

發行所 兼 翻譯者 三谷種吉
神戸市加納町二丁目四十六番屋敷ノ十三號

印刷者 松島與三郎
神戸市兵庫下澤通五丁目五〇ノ七

印刷所 神戸新聞社印刷部
神戸市榮町六丁目六十一番邸

發行所

神戸市加納町二丁目
四十六番屋敷ノ十三號

基督教新聞社

振替口座 大阪四八二九番

我國最大 (繪入) 基督教新聞

傳道雜誌

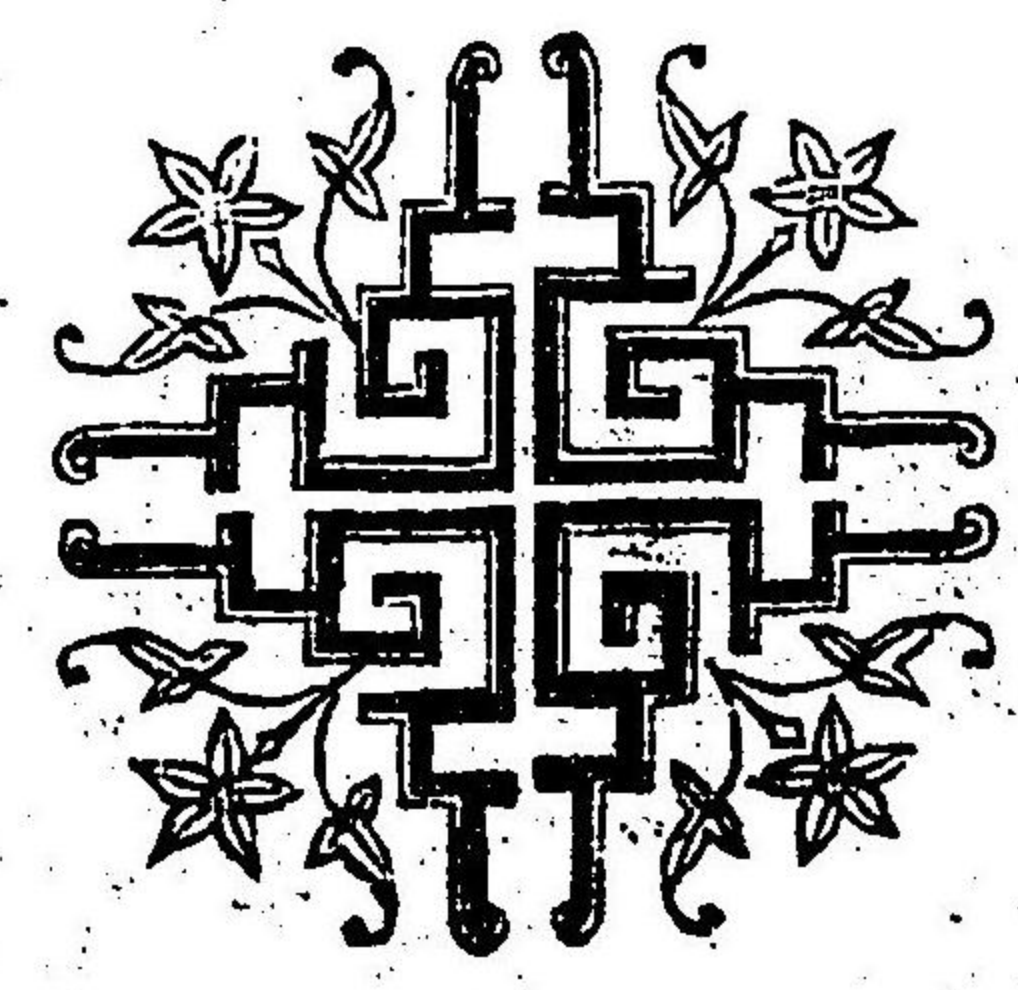
▲發行部數每號一萬三千餘部(每號賣切の盛況)▲購讀者は全國を通じて殆んど各地にあり、海外には朝鮮、支那、濠州、北米、英國等にありませぬ▲代價の廉なると記事の通俗平易なると、材料の福音傳道的なるとに於ては基督教雜誌中第一であります▲本紙を傳道に利用して、其効果の著るしき事は、購讀者なる宣教師牧師傳道師及び信者諸君の御證明に由て明かであります▲本紙は基督教を全く知らざる未信者にも、求道者にも、信者にも、傳道者にも、均しく讀んで利益あり興味ある雜誌であります▲本紙は宗派教會團體等の機關紙にあらず、純然たる傳道専門の雜誌であります▲本紙の特色は聖書其まゝを明瞭平易に説くにあります▲新神學エニテリヤンの如き福音に逆ふ教理は一切掲載致しませぬ▲定價壹部金壹錢、郵税五厘、一ケ年郵税共金拾八錢▲五百部以下割引せず

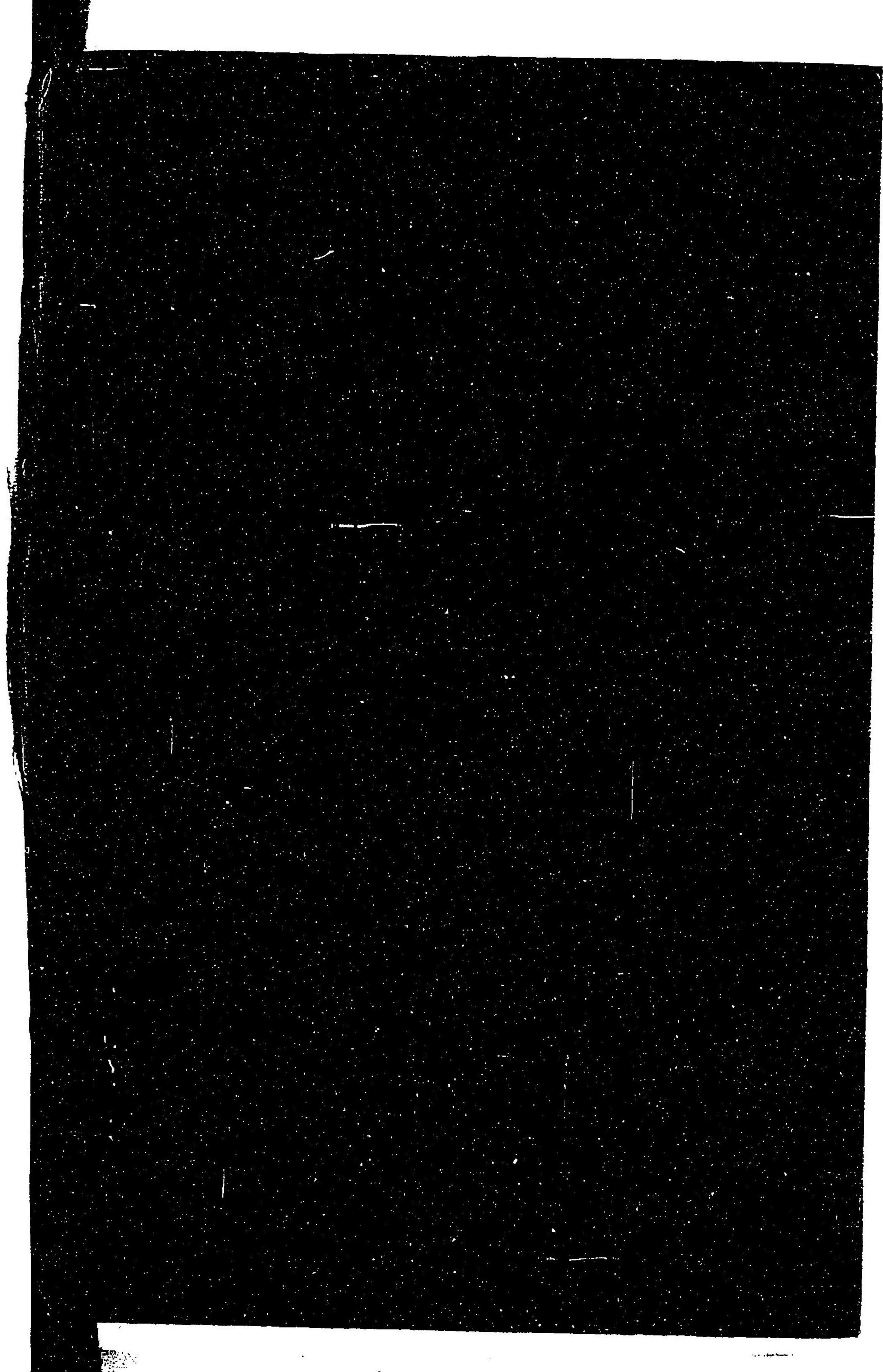
神戸市加納町二丁目四十六番屋敷ノ十三號

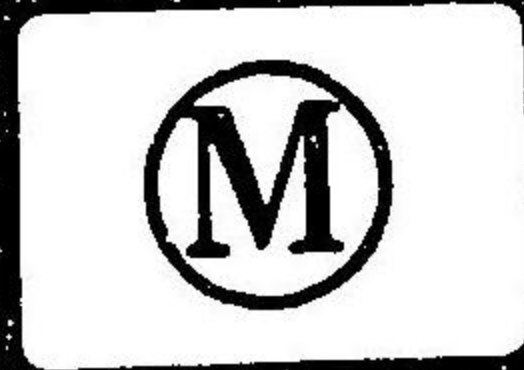
基督教新聞社

振替口座 大阪四八二九番









020262-000-1

325-103

宇伊波実歴談(驚天動地伝道奇譚)

リチャード・ウィーバー／著

図版

M42

ABI-0067

